

2018年 6月 子育てワンポイント

テーマ「子どもに多い夏の感染症」

もうすぐ暑い夏がやってきます。夏になると夏の感染症も流行していきます。
今月は、子どもに多い夏の感染症についてお知らせいたします。
暑い夏を元気に過ごすことができるようにお子様の体調には気をつけてあげてくださいね。

(ヘルパンギーナ)

ヘルパンギーナは急な高い発熱、強い喉の痛みがあり、喉の奥に水膨れやただれが認められます。体がだるくなり、頭痛や嘔吐、関節痛などの症状も出てくるため、機嫌も悪く元気もなくなります。喉の痛みのため食欲が落ちやすいのでゼリーやプリンなど冷たく柔らかい物を試してみてください。



(プール熱)

プール熱は咽頭結膜炎のことですが、プールなどで流行することからこのように呼ばれています。

高熱、鼻水、頭痛などのほかに結膜炎も起こることが多く白眼が赤くなり目やにも出てきます。非常に感染力が強く、咳、くしゃみ、眼やになどから家庭内に広がることも

多いためタオルの共有は避けるようにしましょう。



(手足口病)

手足口病は手・足・口に発疹ができるのが特徴です。熱は高いのですが、口の中の発疹により痛みで食欲が落ちたり、発疹が化膿するなど気をつけなくてはなりません。小さな子どもは抵抗力が弱く体力もないため病気に罹りやすく悪化しやすいものです。水分補給をしっかりとしながら早めに小児科を受診しましょう。



感染を防ぐために手洗いうがいが大切です。ウイルスは咳やくしゃみだけでなく便からも排出されますので、排便の後始末にも十分注意をしてください。



夏場には皮膚の病気も流行りやすく、水いぼ・あせも・虫刺されなどをかきむしった傷から最近感染することにより「とびひ」になることも多いです。とびひは瞬く間に全身に発疹が広がってしまいかゆみも強いいため、眠れず機嫌も悪くなります。悪化しないうちに皮膚科で診てもらいましょう。